

2. 創作ダンスの指導

—— 昭和62年度・昭和63年度の実践とその反省 ——

長尾 芳枝

1. はじめに

私は、本校で高校生のダンスの授業を担当するようになって今年で三年目に入る。思春期から大人への移行期にある高校生にダンスの指導をすることは私にとっては初めての経験であり、試行錯誤の二年間であった。ここに、その実践と反省を報告することにより、今後のダンス指導の新たなステップとしたい。

改めて言うまでもなく学校における創作ダンスは、美的表現力を高め、情操を豊かにするという芸術的機能や、グループによる創作活動をすることによって社会性を身につけるなどの教育的効果をねらうものである。一般にこれまでの授業では、おうおうにしていかにうまく表現し、いかにうまく作品をまとめ発表するかに力点がおかれ、その結果、生徒側にすれば最終的に良い作品ができ上がれば楽しいが、その過程は苦痛でしかありえないという声もきかれる。その原因としては、時間数の少なさ、評価の観点のおき方などが上げられよう。

本校では、週一回ではあるが、二年間継続してダンスの授業が位置づけられている。指導者にとっても生徒にとっても、じっくりと腰をすえてとりくむことができる環境にあるといえよう。私は本校でのダンスの授業を通して、楽しんで創作ダンスにとりくむことにより、生徒たちの心と身体の柔軟性を引き出し、前向きに感動をもって生きていくことができるようにというねがいをもち進めていった。

2. 生徒の実態

- (1) 対象生徒：昭和62年度高校入学者 女子71名
- (2) 対象教材：創作ダンス
- (3) 実践期間：昭和62年4月～平成元年3月
- (4) 実践前の生徒の態度（事前調査）

昭和62年度入学生徒に4月実施したダンスに関するアンケートの結果は次のようである。

表1. 1. 創作ダンスの経験 (%)

直接経験あり 43.7	間接経験あり 16.9	経験なし 39.4
----------------	----------------	--------------

2. 創作ダンスの好嫌 (%)

好き 5.6	嫌い 52.1	どちらでもない 42.3
-----------	------------	-----------------

表1からわかるように創作ダンスを「直接経験した者」43.7%、「間接経験（劇場で見たり、テレビ・ビデオで見たことがある）した者」16.9%、「全くない」という者39.4%と、実際に身体を使って体験した者とそうでない者の割合は約半々であった。創作ダンスは学習指導要領にも位置づけられている単元であり、当然小学校または中学校のどちらかでも経験してきているものと考えていたのだが、見たこともないという生徒の多さに驚いた。ひきつづき創作ダンスが好きですかという質問には、「好き」5.6%、「嫌い」52.1%、「どちらでもない」42.3%であった。創作ダンスが嫌いと思っている生徒は少なくないと予想はしていたが、実態の多さにこれからのように進めたらよいかという不安を感じた。嫌いと答えた生徒のダンス経験の有無を調べてみると小中学校での経験者がほとんどであった。その理由として次のことがらがあげられていた。

- ① 時間がなくてギリギリまでやっていてあまりいいものができなかった。
- ② 人前で踊るのは、恥ずかしくてきらい。
- ③ 動きを考えるのがにがて、めんどう。
- ④ 思うように身体を動かせない。

これらのことから、現在の小中学校の創作ダンスの授業は、ダンス嫌いをつくり出しているように思えてならない。指導時間数、指導方法などの見直しを指導者はしなくてはいけないのではないかと感じた。

以上のような生徒の実態からまず、前途の多難さを感じた。しかし、「どちらでもない」と答えた生徒の中に「やったことがないのでわからないが少しだけ楽しみです」、「むずかしそうだけれど、がんばる」と答えている者がいたことに勇気づけられた。

3. 5つの段階と手だて

事前調査から明らかになった生徒の実態、つまり創作ダンスに抵抗感をもつ生徒が多いということと、二年間継続して指導ができるということから指導期間を次のように5つの段階に分けた。そしてⅠの段階ではいきなり創作ダンスに入るのではなく、ジャズダンス、

エアロビクスダンスなどによってリズムカルに身体を動かす楽しさを味わわせることから始めることにした。私は、踊りを楽しむことは踊ることが好きになることにつながり、それは心をひらくことになっていくと考えている。私は創作ダンスでいちばん大切なことは、心をひらくことであると考えている。従ってまず踊ることを楽しむということを大切にしたい。

指導には、その都度次のような工夫をした。

- ① 毎時間のウォーミングアップをその時間の課題に結びつきやすいものにした。
- ② イメージをひき出すための効果的な音楽を利用した。
- ③ VTRを使用し、作品づくり、鑑賞などに利用した。
- ④ 創作ノートを使った。
- ⑤ 意識調査、感想文などを活用した。

表2. 指導の5つの段階

段階	期間	内容
I	1年生 1 学期	リズムによって踊る楽しさを体験する。
II	〃 2 学期	創作ダンスの基礎を学ぶ。
III	〃 3 学期	小作品をつくり発表、鑑賞する。
IV	2年生 1 学期 ~ 2 学期前半	モチーフづくりと、参考作品を踊る。
V	〃 2 学期後半 ~ 3 学期	大作品をつくり発表、鑑賞する。

表3. 単元計画

学年	学期	段階	時数	学 習 内 容	学 習 活 動	提 出 物	
1	1	I	1	オリエンテーション	○ダンスとは何かを知る。	はじめの アンケート	
			2	いろいろな動きを模倣する	○アップテンポな曲にあわせて教師の動きを模倣する。		
			3	}	○ジャズダンス、エアロビクスダンス、ディスコダンスの動きで踊る。		
			4	} フレーズをおぼえて踊る	○一曲簡単な動きのくみあわせて踊れるようにおぼえる。		
			5	}	○8呼間×4の長さの動きをつくる。		
			6	} 32時間の動きづくり	○グループ(5.6人)で今までおぼえた動きを繰り返し練習し、 隊形移動の変化を工夫する。終止のポーズも工夫する。		
			7		○グループ作品を発表する。		
			8		○作品を鑑賞する。		
			9	} 動きの練習と空間構成の工夫をする			
			10	}			
			11	作品発表 VTR撮る			感 想
			12	まとめ・反省			
1	2	II	1	個の運動の練習	○身体育成をする(以後、ウォーミングアップに少しずつとり入れる)。		
			2	感じのある動き作り①	○「対立」の感じの動きをテーマを決めて16呼間でつくる。発表		
			3	〃 ②	○「いっばいとからっば」の感じの動きを 〃 発表		
			4	〃 ③	○「四季」の感じの曲を聞きながら踊る。		
			5	リズムパターン 単一リズム	○単一リズムの動きをつくり発表する。		
			6	〃 複合リズム	○複合リズムの動きをつくり発表する。		

4. 実践の結果と反省

段階Ⅰ リズムにのって踊る楽しさを体験する

教師の動きを模倣しながら踊っていくことは、はじめはできていたようで、まわりでクスッとカエツとかの声が聞こえてきたが、だんだん熱中していきにしたがって、声もなく真剣にとりくむことができるようになった。自由練習の時グループ内で見せ合い教え合っている姿から、恥ずかしさをとりのぞくというねらいが達成されつつあると感じた。予想していたよりも踊りに対する勘が良く早くおぼえて楽しく踊ることができた。今後Ⅰの段階をもう少し短縮してもよいと感じた。

段階Ⅱ 創作ダンスの基礎を学ぶ

はじめは創作ダンス的な動きに馴れさせるために身体育成法(舞踊の基礎トレーニング)を実施した。この段階Ⅱでは、創作の基礎として、自分の考えていることや〜の感じを動きで表わせるように、具体的な学習課題をつくり毎時間発表する機会をもつようにした。しかし、50分の授業時間の中で、例えばカノンの3つの動きをつくり、練習し、発表することはむずかしく、3時間ほどかかった時もあった。週に一回の授業なのでなるべく次回に送らずにその時間内に発表ができるようにしていきたい。予定していた課題を全部消化はできなかったが、生徒たちは少しずつ動きをつくりみんなの前で発表することに慣れていったようだ。

段階Ⅲ 小作品をつくり発表・鑑賞する

各クラスを二つに分け、5、6人で1グループとした。テーマ・曲は自由にした。発想段階でつまずき苦しんでいるグループもあったが、私がグループの中に入り、一緒に動きながらアドバイスをしていくという形で進めていった。互いに他のグループに刺激されながら、熱心に作品づくりが進んでいった。充分時間をとったつもりだったが、発表間近になって、朝早く学校に来て練習するグループがほとんどであった。練習に熱が入るということはよいことだと思うが、他の学校生活に悪い影響(遅刻など)を及ぼしてしまうという問題点が出てきた。

段階Ⅳ モティーフづくりと参考作品を踊る

作品の最小単位であるモティーフづくりを学ぶことからはじめた。Ⅲの段階で作った作品をVTRで見て、訴えたい動きがはっきりしていないという反省を導き出し、16時間のモティーフをつくり一人一人発表させた。この段階にくると生徒の動きがとても表現的になり工夫もされるようになったことが感じられた。次に、生徒の考えた動きを利用し、四単位形式(起承転結)にそって私が作品をつくり、生

徒に振りつけた。自分達が踊り手になることによって群舞のつくり方や、群舞の変化のおもしろさを学んでほしいと考えた。結果は、群舞のつくり方はわかったと思うが、途中でいろいろと変更しながら作品をつくっていったので(作品をつくる場合つくってはこわすのくり返しであるので)予定時間をオーバーしてしまった。終わってみて、授業という限られた時間の中では、はっきりと作品をつくってから振りつけをすべきであったと反省した。

段階Ⅴ 大作品をつくり発表・鑑賞する

二年間のまとめとしてクラス(12人ほど)で一つの作品をつくった。原則として授業時間内でつくることとしたが、最終的には踊り込みをする時間がとれず、発表の朝早く来て練習していた。これは、段階Ⅳでの群舞の振りつけが長びいたためと反省している。生徒の感想を読むと、クラスが1つの目標に向かってだんだん団結していき発表し終えた喜びを書く者が多かった。

5. 二年後の生徒の実態(事後調査)と生徒の感想

平成元年3月末の調査によると表4に示すように、好きと答えた生徒は52.5%、嫌い9.8%、どちらでもない37.7%という実態であった。これを二年前と比べてみると、好き5.6%から52.5%と大幅に増加し、嫌い52.1%から9.8%とこれは大幅に減少している。このことから生徒は創作ダンスの授業を受けたことにより、創作ダンスに対する前向きな姿勢がみられるようになったといえよう。私のねらいは、いろいろな問題点はあったが、ある程度達成できたといえるのではないだろうか。

表4. 創作ダンスの好嫌(%)

好 き	嫌 い	どちらでもない
52.5	9.8	37.7

表5には、授業前と授業後の創作ダンスに対する気持ちの変化と感想を表にしたものである。生徒の感想から、好きと答えた生徒は、自分の身体で表現し、みせる喜びを感じとったことがうかがえる。また、どちらでもないと答えた生徒については、決められた踊りを踊るのは好きだけれど動きをつくるのはいやと答えている者がほとんどであり、きらいと答えた生徒は、自分は創造力がないからと述べている。きらいと答えた生徒に対しては、授業だけでなく、日常生活において物事に対して前向きに何かを感じ、考えるという習慣をつけることが創造力をつけることにむすびつくものとする。

表5. 授業前と後の創作ダンスに対する気持ちの変化(%)と感想

あと H1.3 はじめ S.62.4	○	△	×
○	4.9% 自分の体でいろいろな物を表現できるのもすごくいいことだと思うし、人間以外の物になろうと思えばなれるから大好き。 <u>Y. S</u>	1.6% うまくできればいいけど、つまっちゃう時もあるし、一生懸命やっても評価されない時もあるし、何を基準にいい、悪いっていつているのかわからない時もあるから。 <u>M. N</u>	0%
△	24.6% 今までは、特に好きではなかったけれど、今回の創作ダンスで自分はおどれないだろうなと思っていた振りつけがみんな朝早く学校へ来て練習したことで自分にもできるようになってうれしかった。一生懸命考えて練習して本当によかったと思う。好きになりました。 <u>A. Y</u>	16.4% 「好奇心」のように先生の指導でやるのは考えなくていいからおもしろく、自分達のは考えるめんどくささとできたおもしろさ両方あるので中間のどちらでもない。 <u>A. H</u>	1.6% 自分に創造力がないから創作ダンスは嫌いです。でもウォーミングアップの時のように踊りが決まっているのをやるのは好きです。 <u>T. O</u>
×	23% 1年のころは、はずかしさもあって、あんまり好きじゃなかったけどだんだん曲にあわせて体を動かすのが気持ちよくなってきて楽しかった。みんなと一緒に考え、一つのものをつくりあげたのがうれしい。 <u>M. T</u>	19.7% 創作ダンスはなかなかアイデアがうかばないから、むずかしい、でもダンスは好き。 <u>H. Y</u>	8.2% 自分に創造力がないから(与えられたものを踊るのは大好き) <u>Y. N</u>

○=すき

△=どちらでもない

×=きらい

6. おわりに

二年間の授業をふり返ると、4で述べたように多くの問題点が明らかになった。創作ダンスが好きになった生徒が半数以上になったことは、一つの収穫といえると思うが、まだまだうわべの楽しさしか味わわせることができなかつたような気がする。今後は、今回明

らかになった問題点を改善していくこととともに、もっと深い魂にふれるような創作ダンスの楽しさを味わわせることができるような授業を追究していきたいと考える。